



日本計量生物学会 ニュースレター

1. 巻頭言	- 1	7. 2021 年度年会・チュートリアルのお知らせ	- 6
2. 試験統計家認定制度について	- 2	せ	
3. 2020 年度 一般社団法人 日本計量生物 学会社員総会（評議員会）議事録	- 2	8. 2021 年度統計関連学会連合大会のお知らせ	- 6
4. 2020 年度理事会議事録	- 3	せ	
5. 2020 年度統計関連学会連合大会報告	- 5	9. 学会誌「計量生物学」への投稿のお誘い	- 6
6. 2020 年計量生物セミナーのお知らせ	- 5	10. 2021 年度日本計量生物学会賞および功労 賞候補者推薦のお願い	- 7
		11 編集後記	- 7

1. 巻頭言「コロナ禍：学問としての計量生物学はどこに向かうか？」

大橋靖雄（中央大学）

このたび、学会から功労賞をいただきました。少しだけ学会設立時代の「貢献」をご紹介します。1984 年に国際計量生物学会議を東京で主催するため日本リージョンが設立されたのが 1979 年、私が東大助手（工学部）になった頃でした。林知己夫、奥野忠一、佐久間昭先生らが資金調達を含め開催の準備に奔走される中、アカデミックな部分を見てくれ、と奥野先生に依頼され、すべてのアブストラクト（300 件？）に目を通しプログラム案を作り、ようやく **biometrics** の全体像を把握できました。同時通訳が入る **invited session** には故・浜田知久馬先生と通訳ブースに入りましたが、あまりにひどい（当時はまだ科学分野の同時通訳のレベルは高くなかったと思います）翻訳に浜田先生が「そこ違う」と声をあげていたのが思い出です。東京大会の前の 1982 年はフランス・トゥールーズの会議に視察の意味で（新婚旅行を兼ねて）参加しました。これが初めての海外旅行・国際学会で、レセプションが 8 時過ぎに始まり 1 時間は食前酒という風習に驚きました。またグルメの奥野先生の御希望にそい、毎夜レストランの予約をするのが佐藤喬俊（2017 年功労賞）さんとの仕事でした。

古い思い出は尽きませんが、若い皆様には興味をもてない話でしょう。少し（まだまとまっていたりはないのですが）今後の計量生物学あるいは医療統計学について思うところを述べさせていただきます。生きている間に論文化できるとよいのですが・・・

3 年前から船渡川伊久子理事が統計数理研究

所で主催している疫学・公衆衛生統計の公開講座で、「日本の公衆衛生にエビデンスはあるか」という（後ろから刺されそうな）テーマで危機感を交えた講義をしてまいりました。これが現実のものとして国民に露呈されたのが「コロナ禍」でしょう。

- ・安全と安心の違い、被害者への差別（福島放射線被曝と同じ問題）
- ・安全を支えるのがエビデンス、安心はヘルスコミュニケーションと担当者への信頼感
- ・日本の行政システム上の課題（多くは明治・敗戦以降の官僚・行政システムの課題）：
 - 専門性を備えた司令塔不足
 - 意思決定の透明性の欠如（知らしめべからず間違いを認めない行政の伝統
 - 感染症の場合はアカデミアの専門家不足
 - エビデンスの重要性の認識不足とそれを生み出すシステムの脆弱さ

とくにアビガンに対する官邸の、エビデンス無視の態度はひどいものでした。またしっかりした論文が日本からほとんど発信されていないのは、この分野のアカデミアの実力の顕れでしょう。誤解の無いように補足すると、これは治療レベルではなく論文の発信の問題です。医師主導試験がまともに国際的にもそれなりの水準で行われ出版されているのは、日本ではがん領域のみです。12 月 9 日の JMCA（日本メディカルライター協会）のセミナーでがん研究センター東病院の吉野孝之医師が、東病院でのライティングマネジメント（高額な海外エージェントをライターとして活用しています）のレベルの

高さを紹介されました。ここまでやるのか、が参加者の感想でした。やれば日本でもできるのですね。しかしこれは吉野先生配下の複数若手医師の能力の高さと教育・経験・情熱があつてのことです。臨床研究法が医師主導試験を衰退させないか、は深刻な課題です。コロナ禍の初めに、まともな試験ではなく、意味不明の「観察研究」が横行したのは臨床研究法の悪影響でしょう。

ちなみに明治時代の東大に招聘されたベルツ医師は、「日本人は西洋の科学技術成果だけを手軽にもぎとろうとする・・・果物を実らせるまでに、我々がまず種子をまき、若木が大きな樹になるまで大切に育て上げたのだということをお忘れている」と正鵠を得た意見を残しています。つまり科学研究のプロセスを理解していない、ということです。これが、エビデンスの意味を理解していない行政・政治のリーダーの意識に

繋がっていると思います。

このような状況下で、統計を専門とするものは何をなすべきでしょう。試験統計家なら、これまでほぼ不毛な医師研究者の教育に貢献することもありでしょう。個々の分野の専門家として、その分野の「技術」としての統計手法の発展に貢献するのも応用統計の本質でしょう。もう一つ、機械学習・データサイエンス（無神論、いまのところ哲学不在）の攻勢の中で、認識論としての統計学の有りかた、意思決定支援としての統計学（得られたデータのコミュニケーション）を考へることが専門家に求められているのではないのでしょうか（大塚淳「統計学を哲学する」名古屋大学出版会、2020；2月6日の読売新聞書評欄（三中信宏先生）が参考となります）。最近流行の「予測問題」を対象として議論の具体化を考えています。

2. 試験統計家認定制度について

手良向聡, 安藤友紀, 山本英晴（試験統計家認定担当理事）

2017年4月に開始しました「試験統計家認定制度」では、臨床研究の統計的デザインと解析・統計家の行動基準に関し深い知識を有し、実践している者を試験統計家（trial statistician）として認定します。臨床研究の科学的かつ倫理的な質を高めることで人々が有効かつ安全な医療の恩恵を受けること、併せて計量生物学の進歩と発展を目指しています。規則・細則、Q&A、審査基準等の詳細については、学会HPをご覧ください。

2020年4月時点で実務試験統計家39名、責任試験統計家30名が認定されています。今後の予定は以下の通りです。なお、2021年度の認定申請のためには2018～2020年度開催の講習会への参加が必須です。

- ・2020年12月12日（土）「講習会（オンライン開催）」、定員20名
- ・2021年3月：2020年度申請分 実務・責任試験統計家認定
- ・2021年5月～7月：2021年度 実務・責任試験統計家認定申請受付

すでに試験統計家認定を受けられた方については、更新のために有効期間内（5年間）に30単位が必要です。単位が付与される学会・セミナー（日本計量生物学会年会、計量生物セミナー、計量生物学講演会、統計関連学会連合大会、IBC、EAR-BC）に参加された場合は、参加証等の証明書が必要となりますので、更新時まで保管願います。

3. 2020年度 一般社団法人 日本計量生物学会社員総会（評議員会）議事録

大橋靖雄, 寒水孝司（庶務担当理事）

○2020年度 第2回社員総会

日時：2020年11月6日（金）18:00～18:45

場所：Zoomによる社員総会

出席：（東日本）

安藤、伊藤、岩崎、大庭、大橋、五所、佐藤（泰）、篠崎、柴田、寒水、高橋、田栗、土屋、平川、船渡川、松浦、松山、山本（紘）、山本（英）、横田

（西日本）

大森、嘉田、川口、古賀、佐藤（俊）、大門、手良向、土居、長谷川、服部、古川、松井、室谷

欠席：（東日本）

菅波、丹後、野間、山口、山中

（西日本）

折笠、森田

<委任状5通>

定足数を満たしていることを確認した後、定款に従い、松井会長を議長として議案を審議した。
第1号議案 評議員選挙結果報告（選挙管理委員会）
選挙管理委員会委員長（五所理事）から、評議員選挙の結果40名の評議員が選出されたこと、投票割合は267/700=38.1%（前回は242/645=37.5%、前々回は204/560=36.4%）であったことが報告された。

第2号議案 会長候補者の選出
会長（兼：理事）の候補者を互選により選出することが確認された。寒水孝司氏から、会長候補者として、松井茂之氏（現会長）が推薦され、手良向聡氏と佐藤俊哉氏から賛成の意見が述べられ、出席評議員の全員一致で賛同が得られた。

第3号議案 理事の選出
本社員総会のオンライン開催により、理事選挙は事前投票（投票期間10月20日～10月30日）として実施されたことが報告された。細則第3条（3）「当該 council member の任期中に理事の改選があった場合には、council member は本学会の理事に就任する」より、現 council member の寒水孝司氏、田栗正隆氏、船渡川伊久子氏、加えて、細則第3条（3）「名誉会員は理事にならない」より、名誉会員の岩崎学氏と佐藤俊哉氏の合計5名を除いた評議員35人が被選挙人であ

り、7名連記の投票のもと、投票期間の最終日（10月30日）に開票の結果、投票者数は32名/40名であったことが報告された。さらに、開票後に4名から投票があったが、本社員総会直前に実施された理事会でこれらを無効とすることが承認されたことが報告された。会長候補者を含めた8名の理事の選出において、得票数8位が2名いたため、選挙管理委員会委員長による抽選の結果、次の8名の理事を選出した。現 council member の3名を加えた合計11名の理事の選出に対して、出席評議員の全員一致で賛同が得られた。

- 選挙による選出：8名（五十音順、敬称略）
安藤友紀、大橋靖雄、五所正彦、高橋邦彦、手良向聡、服部 聡、松井茂之、松山 裕
- 現 council member：3名（敬称略）
寒水孝司、田栗正隆、船渡川伊久子

第4号議案 会長以外の代表理事の選出
松井会長から、会長以外の代表理事として、大橋靖雄氏が推薦され、出席評議員の全員一致で賛同が得られた。

第5号議案 今後のスケジュール
残り5名の理事（理事会選出（理事会指名）理事）と監事候補者の選出については、メール社員総会にて、議決を行うことが確認された。

4. 2020年度理事会議事録

○2020年度 第3回メール理事会

2020年7月9日から7月17日にかけて「Web会議システムの導入について」メール理事会を開催した。審議の結果、Web会議システムを導入（Zoom）することが理事会で承認された。

○2020年度 第3回対面（Web）理事会

日時：2020年9月8日（火）17:00～18:40

場所：ZoomによるWeb理事会

出席：松井、安藤、大橋、大森、五所、柴田、寒水、高橋、田栗、手良向、服部、船渡川、松山、山本、松浦（監事）、酒井（監事）

欠席：大門、三中 <委任状2通>

定足数を満たしていることを確認した後、定款に従い、松井会長を議長として議案を審議した。

第1号議案 庶務担当理事からの報告

大橋靖雄、寒水孝司（庶務担当理事）

庶務担当の寒水理事から、入退会状況、会員数（8月27日時点）、宛先不明者、登記関連の進捗、Zoomの契約と運用の方針、会員総会の予定と今後の方針が報告された。入退会者が承認された。

第2号議案 会報担当理事からの報告
会報担当の船渡川理事から、134号の発行予定（2020年11月下旬）が報告された。

第3号議案 編集担当理事からの報告
編集担当の服部理事から、「計量生物学」の発行状況と投稿状況が報告された。論文投稿時の印刷物の郵送を投稿規定から削除することが承認された。

第4号議案 会計担当理事からの報告
会計担当の柴田理事から、本部送金（2020年度第1回目）とZoomの契約の費用が報告された。

第5号議案 企画担当理事からの報告
企画担当の田栗理事から、2020年度第一回企画委員会、2020年度連合大会（日本計量生物学会シンポジウム、日本計量生物学会奨励賞受賞者講演および会員総会）、2020年度計量生物セミナー（案）、2021年度年会の予定が報告された。
第31回日本疫学会学術総会プレセミナーを共催することが承認された。

第6号議案 広報担当理事からの報告
広報担当の大森理事から、学会HPのリニューアルの方針とマイページの作成案が報告された。ホームページのデザイン案を投票により決定した。マイページの作成について（個人情報の保護の観点を含めて）引き続き検討することになった。

第7号議案 試験統計家認定担当理事からの報告
試験統計家認定担当の手良向理事から、2020年度試験統計家認定の進捗（申請者数、審査の状況、講習会の予定）が報告された。

第8号議案 選挙管理委員会委員長からの報告
選挙管理委員会委員長の五所委員長（理事）から、社員（評議員会）選挙について報告があった。

その他
・医療健康データ科学研究ネットワークへの入会を申し込むことが承認された。

次回の理事会の予定（オンラインまたは対面）
日時：2020年11月6日（金）
17:00-18:00 理事会 18:00-社員総会
2020年12月18日（金）
17:00-新旧理事会

○2020年度 第4回メール理事会

2020年11月2日から11月6日にかけて「2020年度計量生物セミナーの企画案について」メール理事会を開催した。審議の結果、2020年度計量生物セミナーの企画案が理事会で承認された。

○2020年度 第4回対面（Web）理事会

日時：2020年11月6日（火）17:00～18:00
場所：ZoomによるWeb理事会
出席：松井、安藤、大橋、大森、五所、柴田、寒水、大門、高橋、田栗、手良向、服部、船渡川、松山、三中、山本、松浦（監事）、酒井（監事）

定足数を満たしていることを確認した後、定款に従い、松井会長を議長として議案を審議した。

第1号議案 庶務担当理事からの報告
庶務担当の寒水理事から、入退会状況、会員数（10月14日時点）、宛先不明者、登記関連の進捗が報告された。入退会者が承認された。

第2号議案 会報担当理事からの報告
会報担当の船渡川理事から、134号の発行予定（2020年11月下旬）が報告された。

第3号議案 編集担当理事からの報告
編集担当の服部理事から、「計量生物学」の発行状況と投稿状況が報告された。

第4号議案 会計担当理事からの報告
会計担当の柴田理事から、本部送金、学会賞・奨励賞の賞金、2020年度統計関連連合大会に係わる支出、計量生物セミナーについて報告があった。

第5号議案 企画担当理事からの報告
企画担当の田栗理事から、2020年度連合大会の実績、2020年度計量生物セミナー、2021年度年会の予定が報告された。

第6号議案 広報担当理事からの報告
広報担当の大森理事から、学会HPのリニューアルの方針、メーリングリストの運用案が報告された。

第7号議案 試験統計家認定担当理事からの報告
試験統計家認定担当の手良向理事から、2020年度試験統計家認定の進捗（審査の状況、講習会の予定）が報告された。

第8号議案 選挙管理委員会委員長からの報告
選挙管理委員会委員長の五所委員長（理事）か社員（評議員会）選挙について報告があった。

その他
・理事選挙の期日後の投票（4名）の扱いについて検討し、期日前の投票のみを有効とすることが承認された。

次回の理事会の予定（オンライン）
12月18日（金）新旧理事会 17:00-

5. 2020 年度統計関連学会連合大会報告

安藤友紀, 五所正彦, 田栗正隆, 山本英晴 (企画担当理事)

2020 年度統計関連学会連合大会は、2020 年 9 月 8 日 (火) から 12 日 (土) にかけて開催されました。当初は富山市での開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、オンラインでの開催となりました。参加者数は市民講演会が 178 名、チュートリアルが 335 名でした。また、本大会参加登録者数は 935 名と盛会になりました。日本計量生物学会からは日本計量生物学会シンポジウム、日本計量生物学会奨励賞受賞者講演および会員総会の 2 つの企画セッションが行われました。参加者数はそれぞれ約 208 名、約 179 名でした。

9 月 10 日 (木) の午後に行われた日本計量生物学会シンポジウム「評価項目の大小関係に着目して治療効果を評価する統計手法」では、臨床試験の治療効果の評価指標として近年注目されている $\Pr[X>Y]$ を用いた手法について議論が行われました (X と Y は、試験治療群と標準治療群それぞれからランダムに対象者を一人ずつ選んだときの、それぞれの対象者の評価項目)。はじめに坂巻顕太郎氏 (横浜市立大学) から Mann-Whitney-Wilcoxon (MWW) 検定との関連、複数の適切な適用場面、因果推論の観点から見た本指標に対する指摘などが述べられました。次に、篠崎智大氏 (東京理科大学) から、生存時間解析におけるハザード比と本指標の関連が述べられました。比例ハザード性が成り立つ状況では、ハザード比と本指標は 1 対 1 の単調な関係があること、比例ハザード性が成り立たない状況でも、ハザード比のある種の平均と同様

の関係が成立することなどが指摘されました。千葉康敬氏 (近畿大学附属病院) からは、個人の潜在結果変数の対比により定義される類似した指標の定義と非識別性が指摘され、その解決策として有限集団における因果効果を推測するベイズ流推測法が紹介されました。最後に福田武蔵氏 (アステラス製薬) より、情報のある打ち切りを伴う生存時間データにおける本指標や関連した指標の Inverse Probability of Censoring Weighting (IPCW) 推定量が提案され、シミュレーション実験の結果が報告されました。

9 月 10 日 (木) の午後に、日本計量生物学会シンポジウムに続いて 2020 年日本計量生物学会奨励賞受賞者講演および会員総会が行われました。今回の奨励賞受賞者は杉谷利文氏 (アステラス製薬) であり、杉谷氏からの講演がありました。杉谷氏の「医薬品開発における検証の科学と多重比較法」では、多重比較法の一つである MCP-Mod 法を取り上げ、それが医薬品開発における検証の科学にどう寄与しているかについて説明され、MCP-Mod 法をグローバル試験で用いるときの医薬品効果の検証に関する議論が行われました。受賞者である杉谷氏の今後のさらなるご活躍を祈念いたします。続いて行われた会員総会では 2020 年度の学会各賞の授賞式が行われました。学会賞は松山裕氏 (東京大学)、功労賞は大橋靖雄氏 (中央大学) がそれぞれ受賞しました。詳しくは会報 133 号をご覧ください。受賞者の皆様、誠におめでとうございます。

6. 2020 年度計量生物セミナーのお知らせ

安藤友紀, 五所正彦, 田栗正隆, 山本英晴 (企画担当理事)

2020 年度計量生物セミナーを 12 月 19 日 (土) にオンライン開催いたします。今回のテーマは「メタアナリシスとネットワークメタアナリシス」で、統計数理研究所医療健康データ科学研究センターとの共催になります。Richard Riley 氏 (Keele University) を招待しての国際セッションも行われます。以下に概要を記載します。会員の皆様の奮ってのご参加をお待ちしています。

テーマ: メタアナリシスとネットワークメタアナリシス

日時: 12 月 19 日 (土) 10:00~18:30 (国際セッションは 17:30 開始予定)

場所: Zoom によるリモートセミナー

参加登録方法: オンラインポータルサイト (<https://biometrics.ywstat.jp/>) から申し込み

参加費:

日本計量生物学会員 (一般) 5,000 円

日本計量生物学会員 (学生) 2,000 円

日本計量生物学非会員 (一般) 10,000 円

日本計量生物学非会員 (学生) 4,000 円

定員: 500 名

オーガナイザー: 長島健悟 (統計数理研究所), 大庭幸治 (東京大学)

演者: 古川壽亮 (京都大学), 大庭幸治 (東京大学), 長島健悟 (統計数理研究所), 田中司朗 (京都大学), 渥美淳 (東レ株式会社), 山口

7. 2021 年度年会・チュートリアルのお知らせ

安藤友紀, 五所正彦, 田栗正隆, 山本英晴（企画担当理事）

2021 年度日本計量生物学会年会とチュートリアルが 2021 年 5 月に東京理科大学葛飾キャンパスにて開催予定です。

(<https://www.tus.ac.jp/info/access/katcamp.html>)

詳細は改めて学会ホームページ等でご案内しますが、特別セッションとチュートリアルについて以下に概要を示します。なお、年会期間中に日本計量生物学会総会・学会賞受賞式・2020 年度学会賞受賞者講演を開催予定です。

特別セッション（予定）

テーマ：「機械学習への招待（1）統計的機械学習と深層学習」

オーガナイザー：川口淳（佐賀大学）、二宮嘉之（統計数理研究所）、松井孝太（名古屋大学）

演者：浜本隆二（国立がん研究センター）、鎌谷高志（東京大学）、松井孝太（名古屋大学）、原聡（大阪大学）

チュートリアル（予定）

テーマ：因果探索

オーガナイザー：清水昌平（滋賀大学、理化学研究所）

講師：清水昌平（滋賀大学、理化学研究所）、前田高志ニコラス（理化学研究所）、井元佑介（京都大学）

8. 2021 年度統計関連学会連合大会のお知らせ

長谷川貴大, 船渡川伊久子（統計関連学会連合大会プログラム委員）

2021 年度統計関連学会連合大会は長崎大学において 2021 年 9 月 5 日（日）～9 月 9 日（木）の日程で開催されます。チュートリアルセッションおよび市民講演会、企画セッション、一般演題に加えてコンペティションなどを予定して

います。詳細は未定ですが、奮ってご参加をお願いいたします。なお、開催方法については、他学会や新型コロナウイルスの状況等を鑑み、可能な限り速やかに判断される予定です。

9. 学会誌「計量生物学」への投稿のお誘い

服部聡, 五所正彦（編集担当理事）

本学会雑誌である「計量生物学」に会員からの積極的な投稿を期待しています。会員のためになる、会員相互間の研究交流をより一層促進するための雑誌をめざすため、以下の 5 種類の投稿原稿が設けてあります。

1. 原著（Original Article）

計量生物学分野における諸問題を扱う上で創意工夫をこらし、理論上もしくは応用上価値ある内容を含むもの。

2. 総説（Review）

あるテーマについて過去から最近までの研究状況を解説し、その現状、将来への課題、展望についてまとめたもの。

3. 研究速報（Preliminary Report）

原著ほどまとまっていなくてもノートとして書き留め、新機軸の潜在的な可能性を宣言するもの。

4. コンサルタント・フォーラム（Consultant's Forum）

会員が現実に直面している具体的問題の解決法などに関する質問。編集委員会はこれを受けて、適切な回答例を提示、または討論を行う。なお、質問者（著者）名は掲載時には匿名も可とする。

5. 読者の声（Letter to the Editor）

雑誌に掲載された記事などに関する質問、反論、意見。

論文投稿となると、「オリジナリティーが要求される」、「日常業務での統計ユーザーにとっては敷居が高い」などを理由に二の足を踏む会員が多いかもしれませんが、上記の「研究速報」、「コンサルタント・フォーラム」は、そのような会員のために設けられた場であり、活発に利用されることを特に期待しています。いずれの投稿論文も和文・英文のどちらでも構いません。

2004年度から学会に3つの賞が設けられ、その一つである奨励賞は、「日本計量生物学会誌、Biometrics, JABES に掲載された論文の著者（単著でなくても第1著者かそれに準ずる者）で原則として40歳未満の本学会の正会員または学生会員を対象に、毎年1名以上に与えられる賞」です。最近、履歴書の賞罰欄に「なし」と書くことと公募の際に引け目を感じるくらいです。ここ数年、「計量生物学」に掲載された論文が受賞しており、今後もこの傾向は続くものと見込まれます。特に、上記の条件を満たす方は、ご自身の研究成果の投稿先として「計量生物学」を積極的に検討されてはいかがでしょうか。

また、特に最近の計量生物学の研究に関しては、

英語の総説はあっても、日本語で書かれたよい総説・解説が存在しない分野やテーマが多く見受けられます。日本語での総説論文は、多くの会員に有益な情報を提供すると同時に大変貴重なものになりますので、その投稿は大いに歓迎されます。

これまで著者から論文掲載料をいただいていたが、学会員が筆頭著者の場合は無料とすることになりました。2013年発行の34巻1号からこれを適用しています。

なお、論文の投稿に際しては、論文の種類を問わず、雑誌「計量生物学」に記載されている投稿規程をご参照ください。会員諸氏の意欲的な論文投稿を心よりお待ちしております。

10. 2021年度日本計量生物学会賞および功労賞候補者推薦のお願い

大森崇、松山裕（学会賞担当理事）

一般社団法人日本計量生物学会は、日本計量生物学会賞、功労賞および奨励賞の3つの賞を授与しています。この中で、日本計量生物学会賞と功労賞の受賞候補者は、会員の皆様により推薦いただき学会賞選定委員会にて受賞者を推薦し、日本計量生物学会賞受賞者は理事会の承認により、また功労賞受賞者は理事会での協議のうえ社員総会の承認により決定されます。

今年度も、会員の皆様に日本計量生物学会賞および功労賞の推薦をお願いする時期となりました。自薦、他薦いずれも受け付けますので、宜しくご推薦お願い申し上げます。

日本計量生物学会賞および功労賞の対象者は以下の通りです。

日本計量生物学会賞：顕著な研究成果を発表した学会員に対する賞

功労賞：本学会への貢献が大きかった学会員に対する賞

下記の様式により日本計量生物学会賞、功労賞いずれも学会賞選定委員会宛にお送りください。受

賞者の発表と表彰は5月の会員総会で行います。いずれの賞もニュースレターなどで受賞理由を公表いたします（推薦者は非公表です）。

推薦書の様式：A4版1枚に、日本計量生物学会賞または功労賞推薦書と14ポイントで書き、本文は10.5ポイントで以下の内容をご記入下さい。資料の添付等は自由です。

- 1) 被推薦者氏名、所属、連絡先（住所、電話、e-mail）
- 2) 推薦理由
- 3) 推薦期日
- 4) 推薦者氏名（複数の場合は全員）
- 5) 推薦者（複数の場合は代表者）の所属および連絡先（住所、電話、e-mail）

推薦締め切り期日：2021年1月31日（必着）

推薦書送付先：〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5階

（財）統計情報研究開発センター内
一般社団法人 日本計量生物学会事務局 学会賞選定委員会

11. 編集後記

新型コロナウイルスは世界を一変させました。それに伴い私たちの生活にも大きな影響が出た一年となりました。学会活動の面では、会議やセミナー等もオンラインが中心となり、私たちもようやくそれに慣れてきたように思います。しかし

対面でコミュニケーションをとる機会が減ってしまったことや、国際学会をはじめ海外でのイベント参加などでは、時差の影響も大きく、まだまだ試行錯誤が重ねられていることも多いように思われます。

私の所属する大学の附属病院でも、4月から継続的に新型コロナウイルス感染症の重症患者を受け入れ、治療が行われています。そのような患者さんとともに戦っている現場の医療従事者の方々のご苦勞も大きいものとなっているようで

す。おそらく来年になっても影響はおさまらず、世界中でこのウイルスにどう対応していくか、また私たちはどう貢献できるのか、引き続き考えていかねばならないと思います。

(冬の気配近づくお茶の水より)

日本計量生物学会会報第 134 号
2020 年 12 月 21 日発行

発行者: 日本計量生物学会
発行責任者: 松井茂之 編集者: 船渡川伊久子, 高橋邦彦